プレアクト情報

PRE-ACT INFO

本シナリオは、2017.1.9に開催されたイベント、「ライドオフ特別編」（当日打ち合わせ・シナリオ統一コンベンション）で使用されたシナリオだ。

（掲載日：2017.1.10）

■シナリオ基本情報

▼製作

ライドオフ（twitter：@raidooffnova）

▼プレイヤー人数

3～5人

▼想定プレイ時間

4～5時間

▼シナリオタグ

ストリート、警察、イベントシナリオ

●シナリオレギュレーション

本シナリオの想定レギュレーションを以下に記載する。ただし、使用するデータの変更やRLが調整を行った場合、改めてレギュレーションを提示すること。

▼使用経験点

0～30点

▼使用ルールブック

キャスト側に制限は設けない。

ゲストは攻撃の際に最大で21の達成値を出すよう作られている。

■アクトトレーラー

キャスト作成の前に、以下のアクトトレーラーを読み上げること。これはアクトのイメージを膨らませるのに役立つ。

“災厄の都”トーキョーN◎VA。
かつて、この街を震撼させた連続殺人犯が、
10年の時間を経て再来した。
繰り返される犯行は、
街に満ちる正義を呪う、ある復讐者の鎮魂歌。

犯された罪と、相応しい罰。
やがて来たる制裁の刻に、黄金の猟犬は何を想うのか。

トーキョーN◎VA THE AXLERATION
『Fade to Black』

かくて運命の扉は開かれた。

■キャスト作成

プレアクトシート（アクトトレーラー、ハンドアウトなど）を参考にキャストを作成すること。

●クイックスタート

本シナリオでは、以下のサンプルキャストを使用することを推奨する。

『①イヌ』：正義の猟犬（『TNX』p84）
『②カタナ』：現代の騎士（『TNX』p90）
『③クグツ』：企業戦士（『TNX』p86）
『④トーキー』：遊撃記者（『TNX』p88）
『⑤ニューロ』：ニューロキッズ（『TNX』p98）

●必要な神業

このシナリオは、ゲストの即死系神業のみでキャストが死亡しないために、３つ（*1）の防御系神業の所持を推奨する。

●主に使用する技能

本シナリオの情報収集で主に使用する技能は〈社会：警察、企業、ストリート、メディア、テクノロジー〉などである。

■キャスト間コネクション

以下の順番で取得すること。

『①イヌ』→『②カタナ』→『③クグツ』→『④トーキー』→『⑤ニューロ』→『①イヌ』

(*1) 3つ
プレイヤーが３人の場合、必要な防御系神業は２個に変更する。

アクトハンドアウト

各キャストには下記の設定が推奨・あるいは追加される。
キャスト作成時によくプレイヤーと相談すること。

『①イヌ』：ブラックハウンド機動捜査課の捜査官
『②カタナ』：フリーランスの荒事屋
『③クグツ』：千早重工後方処理課第三班の工作員
『④トーキー』：フリーランスの記者
『⑤ニューロ』：フリーランスのハッカー

①推奨スタイル：イヌ

SCENARIO HANDOUT

コネ：桐原（きりはら）シズル　　推奨スート：理性

キミはブラックハウンド機動捜査課の捜査官だ。今回、キミが命じられたのは、ある連続殺人を担当している後輩の桐原シズルの相棒だ。シズルは少しそそっかしいが、正義感も実力も十分ある捜査官だ。彼女となら、必ず連続殺人犯“ペインメイカー”を追い詰められるだろう。

【ＰＳ：ペインメイカーに正しい裁きを下す】

②推奨スタイル：カタナ

SCENARIO HANDOUT

コネ：“マッドアーム”　　推奨スート：感情

ストリートの荒事屋であるキミへ、依頼が回ってきた。それは“マッドアーム”というタタラの捜索と始末だ。サイバー技師である彼は、非道な人体実験で多くの被害者を生み出しているという。彼を見つけ出して、始末する……キミに相応しい、シンプルな仕事だ。

【ＰＳ：“マッドアーム”を始末する】

③推奨スタイル：クグツ

SCENARIO HANDOUT

コネ：小上紫乃（おがみ・しの）　　推奨スート：理性

キミは千早重工後方処理課の工作員だ。今回キミに与えられた仕事は、千早系列の研究所から盗み出された試作サイコアプリの回収。もし試作品の情報が他社の手に渡れば、千早の利益を大きく損なってしまう。なんとしてでも、取り戻さなければならない。

【ＰＳ：千早の利益を守る】

④推奨スタイル：トーキー

SCENARIO HANDOUT

コネ：結城（ゆうき）あや　　推奨スート：外界

フリーの記者であるキミは、チャンネル 99 の結城あやから連続殺人事件の取材を依頼された。凄惨な殺し方に、現場に残された血文字……それらは、被疑者死亡で幕を閉じた 10 年前の事件と似通っている。事件の真相を突き止められれば、大スクープは間違いない。

【ＰＳ：殺人事件の真相を暴露する】

⑤推奨スタイル：ニューロ

SCENARIO HANDOUT

コネ：『②カタナ』　　推奨スート：外界

キミはフリーランスのハッカーだ。今回の仕事は、荒事屋である『②カタナ』と組んで、危険なサイバー技師を始末すること。標的は狡賢く、何者かのバックアップを受けている可能性もあるという。キミの腕を存分に振るうことができそうだ。

【ＰＳ：依頼を完遂する】

RL用テキスト

TXT 4 RULER

■ストーリー

かつてトーキョーN◎VAを震撼させた連続殺人“ペインメイカー事件”。ある刑事が自身の犯行を供述する遺書を残して自殺し、事件は終息したと思われていた。しかし10年後、ふたたびN◎VAで“ペインメイカー”による連続殺人が始まる。『①イヌ』は後輩の桐原シズルと共に捜査を命じられた。時を同じくして、千早系列の研究所から研究途中のサイコアプリが盗まれるという事件が起きていた。

ペインメイカーの正体は桐原シズルである。事件の被害者はいずれも、10年前に起きたペインメイカー事件の黒幕であり、自分たちの罪を刑事に被せて闇へ葬ったのだ。シズルは死んだ刑事の娘であり、事件の真相を突き止めるため警察官となったのだ。そんな彼女に目をつけた盗品ブローカーのエミーは、千早から盗んだ新型サイコアプリ“アサシンコード”をインストールし、卓越した戦闘力を持つ復讐鬼へと仕立て上げたのである。

キャストはそれぞれの目的から連続殺人事件へと関わって行く。事件の真相と黒幕の存在へ辿り着き、エミーを倒すことが出来ればシナリオは終了となる。

■クライマックスの条件

キャストたちが10年前の事件の真相と、“ペインメイカー”の正体がシズルであることを知り、シズルたちを迎撃する準備が整ったらクライマックスフェイズへ移行する。

オープニングフェイズ

OPENING PHASE

●オープニング1：Nightmare Return

シーンプレイヤー：『④トーキー』

登場：不可

◆解説

『④トーキー』のオープニング。結城あやから“ペインメイカー事件”の取材を打診されるシーン。場所はグリーンエリアのカフェを想定している。

◆描写

キミはチャンネル99の結城あやに呼び出され、グリーンエリアにあるカフェにやってきた。キミが店の中に入ると、彼女は奥のテーブルでなにやら資料を睨んでいる。

▼セリフ：結城あや

「あら、『④トーキー』。急に呼び出して悪いわね。ま、座って座って」

「ちょっとあなたに取材して欲しい事件があるの」

「最近、N◎VAで起きている連続殺人。現場はイエローからグリーンまで、広範囲にわたるわ」

「被害者は全員、四肢の腱を切られた上に、心臓を突かれて殺されている。壁には被害者の血で“Pain maker”という文字が書かれているわ」

「……10年前にも、同じ特徴の事件が起きているの。その事件は、被疑者の自殺で終わったんだけどね。真犯人が別にいたのか、模倣犯なのか……」

「どっちにしても、余所より先に真相を突き止めれば、スクープ間違いなしよ。どう、この取材やってみない？」

（引き受けた）「よし、商談成立！　これ、経費と資料ね。いい記事待ってるから！」

◆結末

『④トーキー』が取材を引き受けると、結城あやは経費として3シルバー（3報酬点）を渡す。キャストが取材に出かけたらシーン終了。

●オープニング2：Work Time

シーンプレイヤー：『③クグツ』

登場：不可

◆解説

『③クグツ』のオープニング。小上紫乃から試作品を回収するよう命令されるシーン。場所は千早アーコロジー内にある、後方処理課の班長室を想定している。

◆描写

キミは後方処理課第三班の班長室へとやってきた。キミを呼んだ小上紫乃は、いつも通りニコリと微笑んで、仕事の話を始めた。

▼セリフ：小上紫乃

「お疲れ様です、『③クグツ』さん」

「さっそくですが、あなたにお願いしたい仕事について説明しましょう」

「数週間、千早系列の研究所からサイコアプリの試作データが盗まれました」
「第二班（*2）の調査では、まだ他企業がデータを入手してはいないようです。ですが、それも時間の問題でしょう」
「情報が他社の手に渡れば、千早にとっての大きな損失となります」
「試作データの行方を追跡し、回収すること。それが『③クグツ』さんの今回の仕事です」
「必要であれば、私たちの“隣人（*3）”へ協力を要請しても構いません。任務の内容について、どこまで情報を開示するかは、あなたに一任します」
（任務受諾した）「それでは、よろしくお願いしますね」

◆結末

『③クグツ』が任務を受諾すると、小上紫乃は経費として３シルバー（３報酬点）を渡す。キャストが調査に出かけたらシーン終了。

●オープニング３：THE MARDER CASE

シーンプレイヤー：『①イヌ』
登場：不可

◆解説１

『①イヌ』のオープニング。桐原シズルと初めて出会ったときの回想シーンである。キャストより先に現場に到着していたシズルが、刑事課の捜査官に食ってかかっている。

◆描写１

これは１年ほど前のこと。ある殺人事件（*4）の捜査をしていたキミは、犯人発見の報せを受けて現場へとやってきた。すると、そこでは両手を上げる犯人に向けて銃を構えるブラックハウンドの刑事の前に、ひとりの女性警官が立ち塞がっているではないか。

▼セリフ１：刑事課の捜査官

（シズルに）「なんのつもりだ！　どけ、機捜（*5）の新人！」
（キャストに）「おい、コイツを下がらせろ。ホシは逃走中にオレの部下を撃ちやがった。仇をとらなきゃ、気が済まねぇ」
（『①イヌ』が止めた）「チッ……わかったよ。犯人確保だ。おいテメェ、甘ちゃんの子犬に感謝するんだな！」

▼セリフ１：桐原シズル

（刑事に）「どきません！　司法の裁きを望むのならば、どんな罪をおかした人間でも、自らの手で殺したり、死に追い込むことがあってはならない……それが、私たち警察が守るべき正義ではありませんか !?」
（犯人が確保された）「ふぅ……よかった。ありがとうございました」
（必死に止めた理由を訊いた）「あはは……ちょっと、いろいろありまして。つい、やってしまいました……」
（名前を訊いた）「わ、私は本日よりブラックハウンド機動捜査課に配属されました、桐原シズル捜査官です！」
「これからよろしくお願いしますね、『①イヌ』先輩！」

◆解説２

『①イヌ』のオープニング。レイから桐原シズルと共に“ペインメイカー”事件を担当するように言われるシーン。

◆描写２

ブラックハウンド基地にある、機動捜査課のオフィス。キミがレイに呼ばれて課長のデスクへとやってくると、そこには後輩の桐原シズルが緊張した面持ちで立っていた。

▼セリフ２：桐原シズル

「あっ、先輩！　お疲れ様です！」
（なぜここにいるのか訊いた）「私も課長に呼ばれて……なんでしょう、捜査が上手くいっていないから、叱られるんでしょうか……？」
（捜査について説明された）「はっ、はい！　光栄です！『①イヌ』先輩、よろしくお願いしますね！」

▼セリフ２：レイ

「お、ふたりとも揃ったな。オマエらに頼みたい捜査がある」
「ここ最近、Ｎ◎ＶＡで連続殺人が起きている。ＳＳＳに刑事課、ウチからも桐原を出してはいるんだがな……」
「事件の捜査は、正直言って進展してねぇ。今朝も一件、新しいガイシャが出ちまった。そこで、捜査員の数を増やすことが決まったわけだ」
「『①イヌ』、オマエはこれから桐原の相棒になれ。オマエらふたりで犯人を捜し出して、牙を突き立ててやるんだ」
（辞令を受けた）「よし、じゃあさっそく最新の事件現場に向かって捜査を始めてくれ。よろしく頼むぜ」

◆結末

『①イヌ』が辞令を受けると、捜査費用として３シルバー（３報酬点）を渡す。キャストが現場へ出かけたらシーン終了。

（*2）第二班
後方処理課第二班。情報収集や電脳面での工作を担当している。

（*3）隣人
利益の一致する社外の人間のことを指している。つまり、他のキャストのことだ。

（*4）とある殺人事件
アクトの中心となる“ペインメイカー事件”とは関係ない。

（*5）機捜
きそう。機動捜査課の略称。

『①イヌ』の行動
オープニング３で『①イヌ』が刑事部の捜査官を止めず犯人を射殺させた場合、シズルは『①イヌ』のことを嫌うことになる。ＧＭはアクトの演出を相応しいものに変更すること。

シズルのペルソナ
シズルはカゲの特技〈無面目〉の効果で、常にエキストラとしてシーンに登場する。プレイヤーにシズルのペルソナを尋ねられたら「イヌだよ」と答えればよい。
もし、キャストがシズルのスタイルを見破ろうとしたら、〈隠密〉でリアクションを行なう。この時、〈影化〉と〈私服警官〉の効果で達成値に＋７される。

●オープニング4：Wetworker

シーンプレイヤー：『②カタナ』

登場：不可

◆解説

『②カタナ』のオープニング。『⑤ニューロ』は自動登場。バー“ヤロール”で依頼を受けるシーンとなる。

◆描写

キミ（たち）はレッドエリアにある、バー“ヤロール”へとやってきた。薄暗い店内に入ると、カウンターの向こうから“ゴッドマザー”ドーリスが声をかけてきた。

▼セリフ：ドーリス

「やぁ、いらっしゃい『②カタナ』」

「『⑤ニューロ』も一緒か」

「ちょうどよかった、キミたち宛の依頼が入っている。まぁ、座ってくれ。一杯サービスしよう」

（ホロを差し出して）「標的はこの男――“マッドアーム”と呼ばれている。無免許のサイバー技師、いわゆる闇医者さ」

「彼には人体実験マニアという裏の顔があってね。もうストリートの人間が何人も犠牲になっている」

「この男を見つけ出して始末して欲しい、というのが依頼主の要望だ」

「どうやら彼を裏で支援している人間がいるようだが、ソイツを始末するかどうかはキミ（たち）に任せる(*6)」

「報酬は前金で1ゴールド。成功報酬は別だ。悪い話じゃないと思うが……どうする？」

（依頼主が誰か訊いた）「河渡連合だよ。マッドアームのヤツはアサクサでも“患者”を漁っていたらしい」

（依頼を受けた）「そうか。キミ（たち）に頼めば間違いはないだろう。いい報告を期待しているよ」

◆結末

『②カタナ』が依頼を受けると、ドーリスは1ゴールド（5報酬点）を渡す。キャストが標的を捜しに出かけたらシーン終了。

(*6) 任せる

直接の依頼ではない＝必須ではないということだ。ちょっと気取った言い回しだな。

プレイヤーがピンとこないようなら、「クライマックスあたりで他のキャストと相談して決める、という意味だ」とハッキリ言うこと。

▼設定

「どんな罪を犯した人間でも、法で裁かれるべきです！」

ブラックハウンド機動捜査課の捜査官。父の死の真相を探るべく警察官となり、10年前に起きた警察組織機密漏洩事件を知る。その後、エミーに復讐を唆され新型サイコアプリ“アサシンコード”をインストールされる。普段は一生懸命でちょっと抜けている女性刑事。“アサシンコード”が起動すると冷徹な殺人マシーンと化す。

桐原シズル

カゲ、カタナ、イヌ◎●

No Image

▼設定

10年前に死んだブラックハウンドの刑事。10年前に起きた“ペインメイカー事件”の犯人とされている。本当は事件の犯人が警察内部にいることに気付き、独自の捜査を行なっていたが、すべての罪を被せられて殺された。桐原シズルの実父である。

朝比奈正義

エキストラ（イヌ◎）

リサーチフェイズ

RESEARCH PHASE

●リサーチ1：Scene of Murder

条件：リサーチフェイズ最初のシーン
シーンプレイヤー：『①イヌ』
登場：〈社会：ストリート、警察、メディア〉10

◆解説

『①イヌ』が桐原シズルと“ペインメイカー事件”の現場を調査するシーン。描写とシズルのセリフを読み上げたら、登場した『①イヌ』に目標値13の〈社会：警察〉か〈知覚〉の判定を行なわせる。判定に成功すると、情報【事件現場の特徴】を入手できる。

◆描写

キミたちはイエローエリアにある雑居ビルへとやってきた。薄汚いビルの見た目とは打って変わって、事件の現場となった金融事務所は清潔で、高級そうな家具が並んでいる。

▼セリフ：桐原シズル

「被害者は、この金融会社を経営する男性です」
「第一発見者は従業員。朝出社して、被害者がデスクで死亡していることに気付き、警察へ通報した、とのことです。ＳＳＳの調査で、死亡推定時刻のアリバイは確認されています」
「現場は鑑識が確認中ですが……先輩、私たちもなにか手がかりがないか調べてみますか？」
（判定に成功した）「さすがです、先輩。私も頑張らないといけませんね」

◆結末

判定の処理と演出が終わり、キャストが次の調査に向かったらシーン終了。

●リサーチ2：Business Talk

条件：クグツが“盗品鑑定士”のアドレスへ向かった
シーンプレイヤー：『③クグツ』
登場：〈社会：企業、ストリート、テクノロジー〉10

◆解説

『③クグツ』が情報屋へ話を聞きに行くシーン。『③クグツ』に目標値15の〈交渉〉〈社会：企業〉〈社会：テクノロジー〉の判定を行なわせる。判定に成功すると、情報【盗品ブローカー】の内容を入手できる。

また、このシーンに登場して【マッドアームの居場所】を調査する場合、〈交渉〉や〈信用〉を使用できる。また、情報収集判定の達成値に＋2される（*6）。

◆描写

キミはタタラ街の中心からやや外れた、うらぶれた路地へとやってきた。そこにはひとりの老人が屋台を停めて、怪しげなメモリやトロンの部品を売っている。彼が、件（くだん）の情報屋で間違いなさそうだ。

▼セリフ：情報屋

「いらっしゃい、ウチにはレアものが揃ってるよ。出所は聞かないでくれ。ひっひっひ」
（試作品データについて尋ねた）「ううむ、そっちの客か。悪いが、アンタみたいな得体の知れない人間は相手にしたくないんだ」
（マッドアームについて尋ねた）「あぁ……あいつか。物騒なヤツだが、一応は客だからなぁ……」
（判定に成功した）「仕方ない、そこまで言うならワシが知っていることを話そう」

◆結末

判定の処理と演出が終わり、キャストが次の調査に出かけたらシーン終了。

●リサーチ3：Sheer Heart Attack

条件：キャストが【10年前のペインメイカー事件】を入手した
シーンプレイヤー：『④トーキー』
登場：〈社会：警察、ストリート、メディア〉10

◆解説1

『④トーキー』が襲撃されるシーン。前半ではマッドアームが登場し、『④トーキー』にトループをけしかけてくる。他のキャストの登場などが終わったらカット進行へ移行する。

◆描写1

キミが次の情報を集めて移動していると、後ろから声がかけられた。振り向くと、そこにはドレッドヘアで、右腕がサイバーアームの男が立っていた。

▼セリフ：マッドアーム

「よぉ。アンタ、『④トーキー』さんだろ」
「オレのビジネス相手が、アンタのことを迷惑に思っているんだとよ。ま、悪いが死んでくれ」
（路地裏へ）「おい、オマエら。コイツが標的だ。邪魔するヤツがいたら、一緒に殺せ。ボーナスが出るってよ」
「じゃあな、もう会うこともないだろうよ」（退場する）

▼セリフ2：武装した男たち

（路地裏から出てきて）「へっへっへ、悪いが金のために死んでもらうぜ」
（やられた）「こ、こんなに強いなんて聞いていない……！」

◆結末

カット進行が終わったらシーン終了。

シズルの行動
シズルは“アサシンコード”によって自分が殺人者であるという記憶を封じられている。そのため、常に“普通の捜査官”として振る舞い、ペインメイカーの正体を明らかにしようと行動する。

情報収集判定の回数
ミドル1で事件現場を調べる（「事件現場の特徴」を入手する）判定を行なった場合、情報収集判定は行なえないものとする。また、このシーンで「事件現場の特徴」を入手できなかった場合、次のシーン以降で通常の情報収集で調査できるものとする。

（*6）達成値に＋2される
情報屋に直接尋ねることで、より確実に情報を入手できるということだ。シーンプレイヤーである『②クグツ』はもちろん、他のキャストも恩恵を受けることができる。

プレイヤーが4人の場合
『⑤ニューロ』がいない場合、『②カタナ』がこのシーンまでにキーワード【マッドアームの居場所】を入手していないことがある。その場合、このシーンに登場すれば「▼マッドアームの居場所」を調査できることにすること。

『④トーキー』がいない場合
プレイヤーが3人の場合は、【10年前のペインメイカー事件】を入手したキャストがシーンプレイヤーとなる。

リサーチ3の敵
プレイヤーが3人の場合はトループの数を2に変更する。

マッドアームの退場
マッドアームの退場は妨害できないものとする。これはアクトルールとして扱う。
もしも退場の際にキャストが神業を使用してマッドアームを殺そうとした場合、マッドアームは退場しながら死亡する。シーンの終了後《タイムリー》を使用してダメージを打ち消し、復活すること。

●リサーチ4：Plice of Killer

条件：リサーチ3の直後
シーンプレイヤー：『②カタナ』
登場：〈社会：ストリート〉10

◆解説

『②カタナ』（と『⑤ニューロ』）が“ミス・シェード”エミーから裏切りを持ちかけられるシーン。

◆描写

キミのポケットロンが着信を告げる。発信元は知らない番号だ。

▼セリフ：エミー

「どうも。こんにちは、『②カタナ』さん」
（『⑤ニューロ』がいる場合）「『⑤ニューロ』さんもいるのでしょう？」
「あなた（たち）に話があるの。少し時間をもらえないかしら？」
「私は“ミス・シェード”なんて呼ばれている者よ。キミたちが追っている男の、いわばビジネスパートナーみたいなものね」
「単刀直入に言うわ。私たちの側につかない？　もちろん無料（タダ）とはいわない。相応の金額を支払うわ」
「『②カタナ』さんほどの腕であれば、継続的に仕事を依頼してもいい。そこいらの犯罪結社の下請けより、割のいい報酬を出すわよ」
「もちろん『⑤ニューロ』くんも一緒。この時代、情報こそ武器だもの。あなたのような腕のいいハッカーがいると心強いわ」
（断わった）「あら、交渉決裂ね。残念。さようなら。出来れば、あなたたちとは会わないよう祈っているわ」

◆結末

ゲストとキャストの会話が終わったらシーン終了。

●リサーチ5：The Cold Case

条件：キャストが瀬古のアドレスへ向かった
シーンプレイヤー：『①イヌ』
登場：〈社会：企業、警察、メディア〉10

◆解説

『①イヌ』が最後の被害者候補、瀬古一郎から10年前の真実を聞き出すシーン。キャストが10年前の事件について問いただすと、瀬古一郎は以下の内容を説明する（*7）。

・10年前、瀬古一郎をはじめとする5人の警察関係者たちは、警察の捜査情報や押収品をN◎VAのブラックマーケットへ売りさばき、私腹を肥やしていた。
・仲介や手引きをしていたのが、当時フリーランスのハッカーだったエミーだ。
・瀬古たちは彼女から多額の謝礼を受け取る代わりに、彼女と敵対するフィクサーやブローカーを異常者の仕業にみせかけて殺害。自分たちで捜査本部に参加して証拠を隠滅し続けていた。
・朝比奈正義は瀬古たちの行動を疑問に思い、独自に調査を開始。情報と物品の横流しにまで気付いていた。
・瀬古たちは共謀して朝比奈正義を自殺に見せかけて殺害。エミーが朝比奈の筆跡に似せた遺書を作り、“ペインメイカー事件”の罪を朝比奈正義に被せた。これが10年前の事件の真実である。

◆描写

キミはグリーンエリアの住宅街にある、瀬古一郎の邸宅へとやってきた。居間に通れたキミを、ひどく憔悴した様子の瀬古一郎が待っていた。

▼セリフ：瀬古一郎

「私は体調が優れんのだ。何の要件か知らないが、さっさと済ませてくれ」
（10年前の事件について尋ねた）「……そ、そうか……知ってしまったか」
「ペ、ペインメイカーを始末して、私を守ってくれ！　それが条件（*8）だ！」
（承諾した）「よ、よし。本当だな？　……10年前……私たちは……」
（説明が終わった）「わ、私は、この街のイヌなら誰でもやっているようなことをしただけだ！　朝比奈は正義の味方を気取らなければ死なずに済んだんだ。自業自得だ！」

◆結末

瀬道の話が終わり、キャストが演出を終えたらシーン終了。

（*7）説明する
キャストからの質問に対応したり、説明を円滑に行なうため、内容は箇条書きで書かれている。この内容を参考にしてロールをするとよい。

（*8）条件
キャストがこの条件を承諾し、真面目に守る必要はない。嘘をついてもいいし、“ペインメイカー”という殺人者の脅威を取り除いた、という事実を以て“始末”としてもよい。もしかしたら、胸ぐらを掴んで無理矢理聞きだそうとするかもしれない。
GMはキャストの反応を見て、話し方などの演出を決めること。

No Image

瀬古一郎（せご・いちろう）
エキストラ（エグゼク◎）

▼設定
「わ、私は悪くない！　悪くないんだ！」
10年前のペインメイカー事件捜査チームに所属していた人物。かつてはブラックハウンドの捜査官だったが、裏で情報や物資を横流しし、私腹を肥やしていた。同僚の朝比奈正義（あさひな・せいぎ）を自殺に見せかけて殺し、“ペインメイカー”事件の罪を被せた人間のひとり。

●リサーチ6：Confusion

条件：リサーチ5の直後
シーンプレイヤー：『①イヌ』
登場：〈社会：警察〉10

◆解説

シズルから『①イヌ』へ連絡が入るシーン。

◆描写

キミのポケットロンが震える。発信元は、桐原シズルだ。

▼セリフ：桐原シズル

「先輩、捜査の状況はどうですか？」
（真相を突きつけた）「……やっぱり先輩は優秀な捜査官ですね。そうです、私が“ペインメイカー”です」
（真相を誤魔化した）「先輩、嘘はやめてください。私が“ペインメイカー”だって、もう分かっているんでしょう？」
「お父さんの死について調べていた私に、エミーさんが連絡をしてきたんです」
「そして、私のＩＡＮＵＳにある情報を送ってくれました。そして、瀬古たちが自分たちの悪事をお父さんにを被せて、自分たちはのうのうと裕福な暮らしをしてきたことを知ったんです」
「絶対に許せない……そう思ったんです。あいつらには存分に恐怖に震えてから死ぬことが、正当な罰なんだって。だから、あいつらがやったことを、そのまま返してやったんです」
（シズルの行ないを否定した）「ッ……そう、司法の場で、公正な裁きを……ウゥッ、違う！　あいつらには死ぬべきだ、それが正しいことなんだっ！」
（エミーが黒幕だと指摘した）「なにを言っているんですか、『①イヌ』さん。エミーさんは、私に“正義”を執行するための力をくれた恩人（*9）ですよ？」
「わ、私は必ず瀬古を殺しに行きます。先輩、邪魔を……しないでください」（通信が切れる）

◆結末

ゲストとの会話を終え、キャストたちがシズルたちを迎え撃つ準備を整えたらシーン終了。

●リサーチ7：Paint her Black

条件：リサーチ6の直後
ルーラーシーン

◆解説

エミーがシズルへ《電脳神》（*10）を使用し、シズルを完全洗脳下に置くシーン。

ゲストの会話の（シ）はシズル、（エ）はエミーのセリフであることを表わす。

◆描写

シズルはポケットロンの電源を切り、その場にうずくまる。自分の行ないは正しい……そう頭の中で、もうひとりの自分が囁く。いや、それが自分の本当の意志であり、ブラックハウンドで過ごしたシズルこそ偽りであったような気もする。苦しむ彼女の肩に、ひとりの女性が手を置いた。

▼セリフ：ゲストの会話

（エ）「どうしたの、シズルちゃん。苦しそうね？」
（シ）「え、エミーさん……わ、私は間違っている……気が、するんです」
（エ）「そんなことないわ。復讐は人間の自然な心よ。それに連中は死んで当然のことをした悪党だもの」
（シ）「それだけじゃ、ないんです。エミーさんも、10年前の事件に関わっているって……」
（エ）「チッ……面倒な連中だ。いい、シズルちゃん？　あなたは自分の復讐のことだけ考えていればいい。邪魔人間は、すべて殺しなさい」（神業を使用）
（シ）「……そうですね。大罪人は死を以て償うべきです」

◆結末

完全に感情を失った目となり、機械的に立ち上がるシズル。それを見たエミーは満足げに微笑む。シーン終了。

(*9) 恩人
アサシンコードの洗脳効果で、そう思い込まされているのだ。

ペインメイカーの正体を指摘しなかった場合
キャストがシズルに対して、ペインメイカーの正体を指摘しなかった場合（つまり、瀬古と関係のない場所へ誘き出そうとした場合）でも、クライマックスフェイズへ移行する。エミーは邪魔者であるキャストたちを先に抹殺しようと画策する。つまり、シズルと共に待ち合わせ場所へと現われ、キャストへ攻撃を仕掛けてくるのだ。

(*10)《電脳神》
この効果は演出であり、精神ダメージなどは与えない。もしプレイヤーが5人でキャスト側の即死系神業が多すぎる場合、この部分を「ＩＡＮＵＳをハックした」という演出のみで済ませ、《電脳神》をカット進行で防御系神業として使用してもよい。

“マッドアーム”
タタラ◎●、レッガー、カタナ

▼設定
「アンタも俺の“患者”にしてやろうか？」
フリーランスのサイバー技師、兼殺し屋。人体実験マニアで、エミーにスカウトされて“アサシンコード”の改良を行なっている。優秀な技師というだけでなく、サイバーアームを使った白兵戦にも秀でている。

“ミス・シェード”エミー
マネキン◎、クロマク●、ニューロ

▼設定
「この街では騙される方が悪いのよ。常識じゃない？」
フリーランスの盗品ブローカー。千早からサイコアプリ“アサシンコード”を盗み、ペインメイカー事件を宣伝材料として超巨大企業へと売り捌こうとしている。なお、10年前のペインメイカー事件を裏から手引きしていた張本人でもある。

■情報収集

リサーチフェイズ開始時に調べることができる情報項目は以下のとおり。

『①イヌ』：ペインメイカー事件、桐原シズル
『②カタナ』＆『⑤ニューロ』：“マッドアーム”、マッドアームの目撃情報
『③クグツ』：試作品データ
『④トーキー』：ペインメイカー事件

◆ペインメイカー事件

〈社会：警察、ストリート、メディア〉

8　ここ最近、N◎VAの各所で起きている連続殺人事件（*11）。すでに4人が殺されている。10年前にも同様の特徴の事件が起きているが、今のところ関連は不明。

11　事件初期はSSSとブラックハウンド刑事課、機動捜査課の【桐原シズル】が事件捜査を担当していたが、最新の事件から『①イヌ』が増援として加わった。

14　ブラックハウンド刑事課は【被害者の共通点】を掴んでいるが、公表はしていない。事件の裏側を知るためには、この情報が不可欠だろう。

◆桐原シズル

〈社会：警察〉

9　ブラックハウンド機動捜査課に所属する捜査官。やる気が空回りすることもあるが、正義感が強く、熱心な努力家である。

12　生まれはN◎VAだが、幼い頃に母親と北米へ移住。1年前にN◎VAへ戻ってきて、ブラックハウンドへ入隊。自ら志願して機動捜査課へ配属された。ブラックハウンドの身元調査では経歴に怪しい点はなし。ただし、彼女には周囲に語っていない入隊の目的があるようだ。

◆“マッドアーム”

〈社会：ストリート、テクノロジー〉

8　ストリートで活動する無免許のサイバー技師（タタラ◎）。サイバーウェアやサイコアプリなど、広い医療分野に関する知識と優れた外科的手腕を持つ。

11　本性は極度の人体実験マニア。未登録市民を誘拐しては安全性の確立していない技術を施し、何人もの人間を死亡や廃人化させている（レッガー●）。もちろん自分もサイバーアップしており、戦闘用義手を用いた戦闘能力を得ている（カタナ）。

14　最近は【ミス・シェード】という人物に協力し、何らかの目的のために行動しているようだ。

◆マッドアームの目撃情報

〈社会：ストリート〉

11　マッドアームは最近、N◎VAの各所に姿を現している。そして、その場所の近くでは必ず【ペインメイカー事件】が起きている。

14　また、数週間前にどこかから入手した【試作品データ】と思しきものを、ストリートの“盗品鑑定士”へ持ち込んだという（盗品鑑定士のアドレスを入手する）。彼と交渉すれば、【マッドアームの居場所】の手がかりを得られるかもしれない。

◆試作品データ

〈社会：企業、テクノロジー〉

8　千早系列の研究所で開発されていた軍用サイコアプリの試作品。千早重工の工作員から集めた戦闘データをもとに開発された、暗殺に特化したアプリケーションである。開発名称は“アサシンコード”という。

11　たとえ戦闘技術のない人間でも、即座に一流の暗殺者と同じ技術を得ることができる。ただし、恨みや殺意といった感情が過剰に増幅され、一方で洗脳に対する心理的抵抗力が極度に低下するという欠陥があり、開発は途中で凍結されていた。

14　このデータを、何者かがタタラ街のはずれにいる“盗品鑑定士”に解析させたらしい。彼と交渉すればデータを盗んだ犯人の手がかりが分かるかもしれない（“盗品鑑定士”のアドレスを得る）。

◆セキュリティ

〈社会：警察、テクノロジー〉

10　事件現場となった場所は例外なくSSSとの警備契約を結んでおり、外部からの侵入を感知すると60秒以内にSSSの警察官が駆けつけることになっていた。

13　システムを構築したSSSの人間であればセキュリティの解除は可能である。また、上位警察であるブラックハウンドの権限であれば、セキュリティ内容の閲覧も可能だ。

16　SSSのサーバーを確認したところ、桐原シズルのアカウントから、事件発生の前に現場のセキュリティ状況を閲覧した形跡が残っていた。彼女の真意は分からないが、【シズルの行動】をもう一度確認する必要があるだろう。

（*11）連続殺人事件
手足の腱を切った上で心臓をナイフで突いて殺す、という犯行手口と、現場に被害者の血で「Painmaker」という字が書かれている、という特徴から連続殺人とされている。

盗品鑑定士について
ブラックマーケットに流れてくる“ワケあり”の物品を鑑定し、性能や価格を保証している人物。エキストラである。

セキュリティ
この情報を『①イヌ』が入手した場合、シズルは姿を消す。イベント以外では登場を要請されても、シーンには登場しない。

◆被害者の共通点

〈社会：警察、メディア〉

12　これまでの被害者は、資産家、セュリティアドバイザー、経営コンサルタント、金融業者など、職種も住居も離れており、少なくとも数年は接点がない。

15　しかし彼らは全員、かつては警察関係者であり、【10年前のペインメイカー事件】の捜査チームに参加していたという共通点がある。事件のことを、もう一度洗い直す必要があるだろう。

◆ミス・シェード

〈社会：ストリート、テクノロジー〉

12　10年以上前からストリートで活動しているフィクサー（クロマク◎）。犯罪の手引きや情報の売買、ブラックマーケットへの投資など、幅広く行動している。女性ということ以外、素顔も素性も不明。

15　本名は【エミー】。元フリーランスのハッカーであり、現在は盗品ブローカーとして活動している。

◆マッドアームの居場所

〈社会：ストリート〉

12　マッドアームはN◎VA中の安宿を転々としており、足取りを掴むことは難しい。

15　現在、【ペインメイカー事件】について取材している『④トーキー』という人物を監視しているらしい。おそらく、監視だけでなく隙を見て襲撃を仕掛けるつもりだろう。

◆データモジュール

〈社会：テクノロジー〉

9　マッドアームが買い付けたデータモジュールは、医療用から軍用まで多岐にわたる。おそらく、モジュールさらに細かく解体し、アサシンコードに何らかの追加機能を付与するつもりなのだろう。

12　データモジュールの種類から類推するに、マッドアームとその雇い主は、アサシンコードに洗脳機能と医療用サイコアプリという偽装機能を追加したのと思われる。

15　この機能が実装されたアサルトコードをインストールした場合、特定の人物の命令に絶対服従となり、検査でも異常の発見されない、きわめて危険な暗殺者を即席で作り出せることになる。

◆エミー

〈社会：企業、ストリート、テクノロジー〉

10　かつてストリートでハッカーとして活動していた人物。おもに機密情報の入手や売買を生業としていた（ニューロ）。

13　10年前に大量の資金を手に入れ独立。ハッカー時代に築いていたコネクションを生かし、現在はフリーのフィクサーとして活動している。

16　さまざまな方法で資金を稼いでいるが、もっとも大きな仕事は“企業から試作品の情報などを盗み出し、敵対企業へ高額で売りつける”というもの。その際は“デモンストレーション”と称して、必ず製品を使った凶悪事件を起こしている。

◆シズルの行動

〈社会：警察　コネ：桐原シズル〉

10　一年前の入隊以来、シズルの行動に不審な点は見あたらない。強いて言うならば、暇があれば資料室を訪れ、過去の捜査資料を閲覧していたくらいである。ペインメイカー事件発生時にも施設の利用記録、車輌の使用記録などのアリバイが残っている。

13　ただし、数週間前に【ミス・シェード】という人物と接触して以来、定時報告を怠ったり、ＳＳＳのデータベースに無断でアクセスするなど、それまでにない行動をとるようになっている。また、いつの間にか医療用サイコアプリがひとつ増えていたらしい。

16　シズルのアリバイは、すべて情報偽装によるものだ。彼女が何らかの方法で潜入技能を得ているとすれば、十分に殺人が可能な立場にある。

◆10年前のペインメイカー事件

〈社会：警察、メディア〉

9　10年前にイエローエリアを中心に起きた連続殺人事件。被害者はいずれも、ブラックマーケットで大きな利権を持つブローカーという共通点がある。

12　当時、事件の捜査を担当していたブラックハウンドの捜査官、【朝比奈正義】が犯行を自供する遺書を残して自殺。警察は裏付け捜査の結果、被疑者死亡として事件終了を宣言した。

15　現在のペインメイカー事件の被害者は、いずれも朝比奈正義が犯人であるという“証拠”を提出した捜査関係者である。ただひとり、現在は北米系企業のセニット議員を務めている瀬古一郎という人物だけが生き残っている（アドレスを入手）。

マッドアームの居場所

リサーチ３のイベントが終わっている場合、この情報の目標値15の部分を「『④トーキー』という人物を襲撃したらしい」という内容に変更すること。

また、プレイヤーが３人の場合、「ペインメイカー事件について調査している人間をつけまわし、襲撃のチャンスを狙っているらしい」という内容に変更すること。

サイコアプリの削除

アサシンコードはＩＡＮＵＳにアクセスできればアンインストール可能だ（つまり千早アーコロジーに連れて行かなくても、『③クグツ』がいれば削除できる）。シズルを戦闘不能にした上で、《完全偽装》や《タイムリー》などの神業を使用すれば、後遺症も痕跡も残さず、アプリだけを削除できる。

◆朝比奈正義

〈社会：ストリート、警察、メディア〉

10　ブラックハウンド刑事部に所属していた捜査官。正義感が強く、職務熱心であり、不正を見逃さない、この街には珍しい堅物の刑事だったらしい。

13　10年前のペインメイカー事件の捜査を担当した。しかし、なぜか途中から現場の捜査に加わらず、ブラックハウンドやＳＳＳなど警察組織の情報セキュリティやネットワーク、当時発生していた別の事件の捜査記録を調べていたという。

16　妻と子供がいたが、犯罪結社に悟られぬよう周囲にも隠していた。妻の名字は桐原。娘は今年で18歳になるという。

◆事件現場の特徴

〈社会：警察、メディア〉

10　事件現場には、犯人の特定につながるような物証は残されていない。周辺の監視カメラにも、犯人と思しき人影は映っていない。よほど卓越した潜入・暗殺技術の持ち主（カゲ）でなければ、このような芸当は不可能だ。

13　死亡推定時刻の直前に、事件現場となった建物の【セキュリティ】が外部から解除された形跡がある。

◆盗品ブローカー

〈社会：ストリート、警察〉

11　盗品鑑定士にデータ持ち込んだ、【マッドアーム】というタタラである。

14　彼は【ミス・シェード】というクロマクが入手したデータを解析させ、さらに機能を追加するためのサイコアプリ用【データモジュール】を買い取っていったようだ。

桐原シズルの正体

朝比奈正義は、妻と子供がいることを同僚にも隠していた。そのため、瀬古たちは現在のペインメイカーの正体に心当たりがないのだ。

クライマックスフェイズ

CLIMAX PHASE

●クライマックス：Fade to Black

◆解説 1

キャストがエミーたちと決着をつけるシーン。

舞台（*12）は瀬古の邸宅が想定されている。描写を読み上げ、キャストたちと瀬古の様子を演出したら解説２へ移行すること。

◆描写 1

迎撃の準備を整えたキミたちは、シズルたちが姿を現わすのを待っている。瀬古一郎は、落ち着かない様子で貧乏揺すりをしていた。

▼セリフ：瀬古一郎

「ほ、本当に、だ、だだ大丈夫なんだろうな……？」

（安心しろといった）「わ、私の身になにかあってみろ。お、おまえらは絶対に、ゆ、ゆるさんからな！」

◆解説 2

エミーが周辺のセキュリティをハッキングして一瞬だけダウンさせる。その隙に、桐原シズルをはじめとする襲撃部隊が突入してくる。

◆描写 2

突然、建物内の照明がすべて消え、センサー類がダウンする。すぐに予備電源が起動し、部屋の中に灯りが点く……しかし、その一瞬の間に、キミたちの目の前には冷たい眼をしたひとりの女性が立っていた。

▼セリフ：桐原シズル

（瀬古にナイフを向けて）「瀬古一郎、オマエの罪を償う方法は“死”しかない」

（『①イヌ』が制止した）「やはり邪魔をするのですね、『①イヌ』先輩」

（殺すな、と言った）「だっ、黙れ……無実の人間を死に追いやるような者に、法の裁きなど無意味……そう、無意味です」

「罪人に味方をするのなら、罪人と同じ。『①イヌ』、あなたの罪も死で償え！」

（やられた）「……殺さなくて……いい、んだ……」

▼セリフ：エミー

（ドローンから音声が流れる）「さぁ、最後の“デモンストレーション”の時間よ」

「10年も小金をせびられ続けて、いい加減うんざりしていたのよね。シズルちゃんも仇を討てて、一石二鳥ってわけ」

「『①イヌ』だっけ？　この子は立派な殺人犯。ちょっとサイコアプリで背中を押してあげたけど、もともと心の底には憎しみが泥のように溜まっていたのよ」

「捕らえてアサシンコードを削除しても、人を殺した事実は事実。罪の意識に苛まれながら生きるより、すっぱりと殺し屋にでも生き方を変えた方が、この子のためだと思わない？」

（否定した）「あら、そう。青臭い……これだからイヌって嫌いよ」

「お喋りが過ぎたわね。さ、こいつらを全員始末しなさい」

（やられた）「くっ、くそっ！　私がイヌころなんかに、やられるだと……」

▼セリフ：マッドアーム

（柱の陰から出てきて）「待ちくたびれたぜ“ミス・シェード”さんよ」

「オマエら全員、殺（バラ）したら死体は好きにしていいって契約でね。クックック、よりどりみどりじゃねぇか！」

「特に『②カタナ』！　いいねぇ、オレはお前みたいなヤツを解体するのが、最高に楽しみなんだ！」

（やられた）「くそっ、こんなことなら、もっとサイバーアップしときゃ、よかったぜ……」

◆カット進行

桐原シズル、マッドアーム、エミー、傭兵部隊（カブトワリ・トループ）×２となる。プレイヤーが４人の場合は傭兵部隊の数を１に変更し、３人の場合はトループを参加させないこと。

◆結末

カット進行が終わったらシーン終了。

（*12）舞台

キャストが瀬古邸以外の場所で迎え撃つことを決めた場合、そこがクライマックスフェイズの舞台となる。ちなみに、どこを選択してもクライマックスフェイズにおけるカット進行の有利／不利には影響しない。たとえブラックハウンド基地本部でも、千早アーコロジー内部でも、日本軍駐屯地でも、必ずシズルたちは瀬古を殺しにやってくる。

その場合、ブラックハウンド隊員や千早の工作員たちは何をしているかって？　プレイヤー側が用意したエキストラの演出はＲＬの仕事じゃないぜ。「別働隊が襲撃してきて足止めを食らっている」というひとことで片付ければいいんだ。メインはキャストなんだからな。

シズルの登場

プレイヤーが３人の場合、シズルは《不可視》を使用して、いつの間にかキャストたちの近くに出現する（この使用方法はアクトルールとして処理する）。つまり、カット進行では使用しない。

シズルのセリフ

瀬古がその場にいない場合、瀬古へ向けたセリフはカットするか、“瀬古が見ているであろう監視カメラへ向けて話す”など、適宜相応しい内容へ変更すること。

エンディングフェイズ

ENDING PHASE

エンディングフェイズに記述されている描写やセリフなどは、あくまでも演出の一例である。それまでのアクトの内容や神業の使い方によっては、記述とは異なる内容になることもある。その場合、アクトの内容に合わせて演出を変更すること。

もし迷ったら、プレイヤーにやりたいシーンの内容を尋ねてしまうとよい。もし希望がなければ、シナリオに書かれたエンディングを元に演出すること。

●エンディング1：Punishment

シーンプレイヤー：『①イヌ』

登場：解説参照

◆解説

キャストは判定なしで登場可能。『①イヌ』がペインメイカーに《制裁》を使用するシーン。

◆描写

戦いは終わった。シズルを支配していたサイコアプリは機能を停止し、氷のように冷たかった瞳に、正気が戻ってくる。

▼セリフ：桐原シズル

「先輩……私は……殺人者です」

「私は、自分の中にある憎しみに、負けました……警察官、失格ですね」

「先輩……いえ、『①イヌ』捜査官。私の罪を、裁いてください」（両手を差し出す）

◆結末

『①イヌ』の神業の処理や演出などが終わったらシーン終了。

●エンディング2：The Sun Also Rises

シーンプレイヤー：『④トーキー』

◆解説

『④トーキー』のエンディング。結城あやと報道の内容について話すシーン。もし《暴露》をまだ使用していない場合、シーンを始める前に神業の使い方や演出をプレイヤーと相談すること。

◆描写

キミのスクープは、N◎VAの街を大いに驚かせた。各メディアも一斉に事件の“真相”を報道しているが、どれも後追いに過ぎない。キミに取材を依頼した結城あやも、この状況に上機嫌だ。

▼セリフ：結城あや

「最高のニュースだったわ、『④トーキー』。おかげで視聴率トップ！　チャンネル99の加入者数も順調に増加中よ」

「でもまさか、10年前の事件が、こんな形で続いているなんてね。この事件が起きなければ、10年前の“ペインメイカー事件”のことを覚えている人なんて、いなくなっていたのかしら」

「みんなの記憶から消えそうになっている出来事に、もう一度光を当てるのも、私たちの仕事かもしれないわねー」

「ねぇ『④トーキー』、取材終わったんだから空いているでしょ？　ちょっと資料室の整理、手伝わない？」

◆結末

キャストが返事をしたらシーン終了。

●エンディング3：A Littele Break

シーンプレイヤー：『③クグツ』

◆解説

『③クグツ』のエンディング。小上紫乃に任務完了を報告するシーンとなる。もし《完全偽装》をまだ使用していない場合、シーンを始める前に神業の使い方や演出をプレイヤーと相談すること。

◆描写

千早アーコロジーへと戻ってきたキミは、任務完了の報告のため、小上紫乃の班長室へやってきた。

▼セリフ：小上紫乃

「お疲れ様です、『③クグツ』さん。報告を聞かせてください」

（報告が終わった）「わかりました。千早系列の研究所が“事故”を起こした際、いくつかの試作情報がロストしましたが、社外に漏れたものは“なかった”……カバーストーリーは、このくらいの内容でしょうか」

「『③クグツ』さん、あなたのお陰で重要な試作品のデータが流出せずに済みました。千早は名前に傷もつかず、利益を損なうこともありません。素晴らしい仕事ぶりです」

「あなたには48時間の休息が許可されます。せっかくですし、ご一緒にお茶でもいかがですか？」

◆結末

キャストが返事をしたらシーン終了。

《制裁》の内容

『①キャスト』の判断によって、《制裁》を使用する相手や内容は変わってくるだろう。重要な点は、“桐原シズルを殺人罪に問うかどうか”だ。これは『①イヌ』が判断することである。『①イヌ』のプレイヤーが迷うようであれば、次のことを説明するとよい。

社会ダメージ［21：有罪］を与えた場合、シズルは終身刑となる（当然、ブラックハウンドは辞職となる）。もし、10年前の事件やエリーによる精神誘導があることを以て情状酌量とするのであれば、シズルは要監視を条件に罪を免じられる（ブラックハウンドに残ることとなる）。シズルを殺人犯として収監しないことを望むのであれば、［21：有罪］以外の、プレイヤーの任意の社会ダメージを与えるとよいだろう。

すでに《制裁》を使用済の場合

クライマックスフェイズまでに『①イヌ』が制裁を使用している場合、その内容に応じてエンディング1の演出を変更すること。

桐原シズルが死亡している場合

カット進行で桐原シズルが死亡している場合、エンディング1は発生しない。また、『①イヌ』のエンディングは桐原シズルの葬儀のシーンとなる。レイが『①イヌ』に「あいつの情熱は本物だった」「あいつの分までオレたちが働かないとな」と話す。

●エンディング4：Professional

シーンプレイヤー：『②カタナ』

◆解説

『②カタナ』のエンディング。『⑤ニューロ』は自動登場となる。仕事の完遂を報告するため、バー“ヤロール”を訪れるシーンとなる。

◆描写

キミたちは、ふたたびバー“ヤロール”へと来ていた。薄暗い店内に入ると、他の“客”たちの視線が一瞬だけキミたちに集中する。

▼セリフ：ドーリス

「いらっしゃい、『②カタナ』『⑤ニューロ』。どうぞ、こっちに座ってくれ」

「キミたちが“マッドアーム”を始末したという話が、もうストリートに広がっていてね。みんなキミたちに注目しているのさ」

「依頼人は、キミたちの働きに満足している」

「真のプロフェッショナルには“こいつに任せれば間違いない”……という信頼が不可欠だ。それをしっかりと守ってくれるキミたちのような人間に仕事を紹介できて、フィクサー冥利に尽きるよ」

「この一杯は私の奢りだ。どうぞ、飲んでくれ」

◆結末

ドーリスはカクテル“ＸＹＺ”をキャストに差し出す。キャストが返事をしたらシーン終了。

●エンディング5：Separation

シーンプレイヤー：『①イヌ』

◆解説

『①イヌ』のエンディング。事件からしばらくして、桐原シズルと会話をするシーン。

このシーンは、『①イヌ』がシズルを有罪とし、ブラックハウンド基地内に留置されている状況や、重刑でなくともブラックハウンドに残留しなかった場合など想定している。もし、シズルを有罪としていない場合はエンディング６を参照すること。

◆描写

キミは桐原シズルと面会するため、ブラックハウンド基地にある留置所へとやってきた。裁判が始まれば、面会する時間は難しくなる。彼女と会えるのも、もうこれが最後かもしれない。

▼セリフ：桐原シズル

「お久しぶりです、せんぱ……いえ、『①イヌ』さん」

「そろそろ裁判が始まります。私は、自分がしたこと、10年前のこと、ぜんぶ包み隠さず話すつもりです。それが私ができる“正しいこと”だと思うから……」

「あなたは、正義の猟犬であり続けてください。不出来な後輩からの、最後のお願いです」

「さようなら、『①イヌ』さん」

◆結末

キャストが返事をしたらシーン終了。

●エンディング6：Golden Hounds

シーンプレイヤー：『①イヌ』

◆解説

『①イヌ』のエンディング。職務に復帰した桐原シズルと共に、新たな捜査辞令を受けるシーン。

このシーンは、『①イヌ』がシズルを有罪とせず、ブラックハウンドに捜査官として残った場合を想定している。もし、シズルを有罪としている場合はエンディング６を参照すること。

◆描写

事件からしばらく経ったある日。レイに呼び出されたキミは、課長のデスクへとやってきた。そこにはレイと、緊張した様子の桐原シズルの姿があった。

▼セリフ：レイ

「よっ、『①イヌ』。今日からオマエの相棒になるやつを紹介するぞ」

（会話に区切りがついた）「さっそく、オマエたちにはイエローで起きた強盗殺人事件の捜査にあたってもらう。ちゃっちゃと片付けてこい！」

▼セリフ：桐原シズル

「き、桐原シズル捜査官。本日より隊に復帰しました！」

「先輩……その、この度はたいへんご迷惑をおかけしました！」

「先輩や課長のおかげで、私はイヌを続けることができます。とても……とても、嬉しいです」

「こんどこそ一人前のイヌになれるよう、誠心誠意、粉骨砕身、職務に励みますね」

（辞令を受けた）「さぁ、行きましょう、『①イヌ』先輩！」

◆結末

キャストが返事をしたらシーン終了。ポストアクトへ移行すること。

“ペインメイカー”桐原シズル

カタナ◎、カゲ、イヌ●

▼設定

「悪に死の裁きを」

サイコアプリによって精神を戦闘に最適化された桐原シズル。

▼神業

□死の舞踏　□不可知　□制裁

▼能力値／制御値

♠理性：８／13　♣感情：２／12
♥生命：８／14　◆外界：５／９

▼戦闘データ

【ＣＳ】９　【ＡＲ】１
【防御力】Ｓ：１／Ｐ：１／Ｉ：２

▼一般技能

３♠♧♥◆　隠密
４♠♣♥◆　★白兵
３♤♣♥◆　★回避

▼スタイル技能

３♠♧♥◆　無風剣　（TNX204）
２♤♧♡◇　影化　（TNX208）
１♤♧♡◆　無面目　（TNX208）
３♠♧♥◆　†死点撃ち　（TNX209）
３♤♣♥◆　緊急回避　（TNX222）
５♠♣♥◆　私服警官　（TNX222）

▼アウトフィット

・犬牙×２……電：18／隠：12（TNX232）
攻：Ｓ＋４、受：１。鋭利な軍用ナイフ。両手に１本ずつ装備。

・アーマージャケット……電：12／隠：12（TNX238）
動きやすさを重視した黒い服。

・閃鋼……電：16／隠：15（TNX246）
神経加速装置。効果は戦闘プランを参照。

▼戦闘プラン

・**セットアッププロセス：**閃鋼を使用し、【ＣＳ】を15に変更する。
・**メインプロセス：**ムーブアクションでキャストの至近距離へ移動。マイナーアクションはなし。メジャーアクションで〈白兵〉〈隠密〉〈無風剣〉〈死点撃ち〉を組みあわせて攻撃を行なう。判定の達成値に＋２。ダメージはＸ＋14となる。
・**その他：**物理攻撃に対して〈回避〉と〈緊急回避〉でドッジを行なうことで、対決に敗北しても肉体ダメージを５点減少できる。
・**神業：**《死の舞踏》と《不可視》は即死系神業としてキャストに使用すること（プレイヤーが３人の場合《不可視》は使用済みとなっている）。《制裁》はカット進行中は使用しない（キャストが撤退したり全滅した場合、瀬古に［19：暗殺］のダメージを与えて死亡させる）。

マッドアーム

タタラ◎●、チャクラ、カタナ

▼設定

「安心しろ、死体はきっちり役に立ててやる」

ストリートで人体実験を繰り返してきたサイバー技師。

▼神業

□タイムリー　□不可触　□死の舞踏

▼能力値／制御値

♠理性：７／12　♣感情：３／11
♥生命：７／13　◆外界：７／12

▼戦闘データ

【ＣＳ】８　【ＡＲ】１
【防御力】Ｓ：４／Ｐ：５／Ｉ：７

▼一般技能

３♠♧♥◆　製作：サイコアプリ
３♠♧♥◆　製作：サイバーウェア
３♠♧♥◆　★白兵

▼スタイル技能

３♠♧♥◆　†加速装置　（TNX187）
３♠♧♥◆　†修羅　（TNX205）
３♤♧♡◇　イカサマ　（TNX212）
３♠♧♥◆　鉄砲玉　（TNX212）
１♤♧♡◇　手妻使い　（TNX212）

▼アウトフィット

・ナーゲル……電：18／隠：５（TNX234）
攻：Ｓ＋５、受：3。片腕全体を置き換える戦闘用サイバークロー。

・アーマージャケット……電：12／隠：12（TNX238）

・フェイトコート……電：15／隠：13（TNX238）

・メタルアーマー……電：13／隠：-（TNX239）

・アサルトナーブス……電：16／隠：15（TNX246）
神経加速装置。効果は戦闘プランを参照。

・キラーフェイス……電：15／隠：12（TNX254）
戦闘用サイコアプリ。効果は戦闘プランを参照。

▼戦闘プラン

・**セットアッププロセス：**〈加速装置〉を使用し、桐原シズルの【ＣＳ】を＋［判定に使用したカードの数値］する。
・**メインプロセス：**ムーブアクションでキャストの至近距離へ移動。マイナーアクションは〈手妻使い〉を使用し、追加で２回のマイナーアクションを得る。増えたマイナーアクションでアルトナーヴスとキラーフェイスを使用。シーン終了まで物理攻撃で与えるダメージに＋４する。メジャーアクションで〈白兵〉〈鉄砲玉〉〈修羅〉を組みあわせて攻撃を行なう。判定の達成値に＋３。ダメージはＳ＋15＋［差分値ダメージ］となる。
・**神業：**《タイムリー》は防御系神業としてゲストに使用すること。《不可触》はカット進行中は使用しない（キャストが撤退、全滅した場合、自分たちの犯行の痕跡を消すために使用する）。《死の舞踏》は即死系神業としてキャストに使用すること。

傭兵部隊

カブトワリ４レベルトループ

▼設定

「報酬のために死んでもらうぜ」

金で殺しを請け負う荒くれ者たち。

▼能力値／制御値

♠理性：６／８　♣感情：４／８
♥生命：６／７　◆外界：７／９

▼戦闘データ

【ＣＳ】６　【ＡＲ】１
【防御力】Ｓ：１／Ｐ：１／Ｉ：２

▼一般技能

４♠♣♥◆　★射撃

▼スタイル技能

３♤♧♡◇　クイックドロウ　（TNX214）
３♠♧♥◆　†必殺の矢　（TNX215）

▼アウトフィット

・ＡＫＲ48……電：13／隠：３（TNX235）
攻：Ｐ＋６、射程：近〜中。アサルトライフル。

・アーマージャケット……電：12／隠：12（TNX238）
動きやすさを重視したジャケット。

▼戦闘プラン

・**セットアッププロセス：**使用するものはない。
・**メインプロセス：**ムーブアクションでキャストが武器の射程に入るよう移動する。マイナーアクションはなし。メジャーアクションで〈射撃〉〈必殺の矢〉を組みあわせて攻撃を行なう。判定の達成値に＋３、ダメージはＰ＋６＋［差分値ダメージ］となる。

“ミス・シェード”エミー

マネキン◎、クロマク●、ニューロ

▼設定

「私の目の前から、さっさと消えなさい」

ストリートで盗品を売り捌くフィクサー。

▼神業

□プリーズ！　□腹心　■電脳神

▼能力値／制御値

♠理性：５／11　♣感情：７／15
♥生命：３／９　♦外界：６／13

▼戦闘データ

【CS】７　【AR】１
【防御力】S：3／P：4／I：4

▼一般技能

4♠♣♥♦　★心理
3♠♣♡♦　交渉
3♠♣♡♦　電脳

▼スタイル技能

3♤♧♡◇　誘惑　(TNX194)
3♠♧♥♦　大嫌い　(TNX194)
3♠♣♡♦　†サポート　(TNX225)

▼アウトフィット

・ＷＩＺ－Ｘ……電：12／隠：13（TNX244）
手帳サイズのタップ。

・スプライト……電：15／隠：－（TNX249）
ＳＦ２。小型ドローン。

▼戦闘プラン

・**セットアッププロセス：**使用するものはない。
・**メインプロセス：**他のゲストがカット進行に残っているかどうかで、メインプロセスの内容が変わる。
　ゲストが残っている場合、ゲストへ〈電脳〉〈サポート〉を組みあわせて使用する。判定の目標値は 10。成功した場合、対象となったゲストは即座にメインプロセスを行なう（ＡＲが０でもメインプロセスが可能であり、このメインプロセスを行なってもＡＲは０にならない）。また、そのメインプロセス中に判定を行なう場合、達成値に＋２する。対象の優先度はシズル＞ジェフリー。
　ゲストが残っていない場合、至近～近距離のキャストへ〈心理〉〈交渉〉〈大嫌い〉を組みあわせて精神攻撃を行なう。判定の達成値に＋３。ダメージは５となる。
・**神業：**《プリーズ！》はジェフリーの《タイムリー》に使用し、防御系神業として使うこと。《腹心》は防御系神業として自身へのダメージを打ち消すこと。

プレイレポート

●このシナリオについて

このシナリオは、ヒロインである桐原シズルの復讐と罪をテーマにしたシナリオだ。シズルの犯した罪を『①イヌ』がどのように裁くのかが重要なポイントとなる。

アクトごとに結末は違っていたが、プレイヤーたちは“スタイルを貫いた”という満足感を得てエンディングを終えていた。

●初心者と『①イヌ』について

本シナリオはトーキョーN◎ＶＡを初めて遊ぶプレイヤーを意識して作成されている。

あるアクトでは初心者のプレイヤーが『①イヌ』を担当することがあった。この時はＲＬがプレアクトで「《制裁》には使用想定となるシーンが存在する」ということを説明した上で、実際に使用する際は「《制裁》という神業は人を罪を裁くこともできるし、無罪にすることもできる」ということを伝えると、キャストの設定や性格をもとに与える社会ダメージを決め、アクトを盛り上げていた。

●桐原シズルについて

ヒロインの桐原シズルは刑事であり殺人事件の実行犯でもある。『①イヌ』とシズルの関係をどう設定するかが、アクト全体の雰囲気や結末に大きく関わってくる。

あるテストプレイでは、『①イヌ』に“元刑事部である”という設定があった。朝比奈正義（シズルの父親）の情報が出たとき、プレイヤーから「彼のことを知っていていいかな？」という提案し、父親との思い出を語りながらシズルを説得する、というドラマチックなクライマックスを展開していた。

また別のテストプレイでは、頼りないシズルをフォローする『①イヌ』という流れを作ることで、《制裁》の使用も『①イヌ』がもう一度警官としてやり直すよう、示唆した上で無罪を選ぶ、という選択がされた。

●“ミス・シェード”エミーについて

本シナリオにおける黒幕的立ち位置とも呼べるのが“ミス・シェード”エミーだ。利益のためにシズルをとことん利用している、自分本位な悪人である。

あるアクトでは、ＲＬが「利用価値がある間は利用するだけ。その娘（シズル）だって、使える間は使ってあげるわ」という演出をすることで、キャストたちがエミーを倒すモチベーションを引き上げていた。

●マッドアームについて

“マッドアーム”は、自らエミーに加担しているマッドサイエンティストであり、基本的に“自分の欲求を満たせればよい”という人物だ。あるアクトではマッドアームに「お前もオレと同じ、他人を力でねじ伏せて楽しんでいるじゃないか！」と言われた『②カタナ』が「お前のような外道とはスタイルが違うんでね」と返しながら《死の舞踏》を使う、という演出でアクトを盛り上げていた。また『⑤ニューロ』に「オレの相棒の方が楽しいぜ？」というアクトもあり、「キミは２秒で飽きそうだから『②カタナ』の相棒の方がいいや」と言い返す、という場面もあった。

■本作品について

本作品は、株式会社エンターブレインより刊行された『トーキョーN◎V A THE AXLERATION』や、その関連商品を取り扱った二次著作物（シナリオデータ）です。
『トーキョーN◎V A THE AXLERATION』とその関連商品、および『ゲーマーズ・フィールド誌』は、有限会社ファーイースト・アミューズメント・リサーチの著作物です。
本書の内容はフィクションであり、実在する歴史上の人物、団体、地名などとは一切関係がありません。
また、本書は特定の思想、信条、宗教などを擁護あるいは非難する目的を持って書かれたものではありません。

■利用規定

本作品は無料で自由にアクトに利用することが出来ます。
ただし、シナリオを使用した際には必ず、作者にシナリオやアクトの感想を送ってください。
シナリオ製作者にとって、なによりの励みは感想を貰えることです。
ホームページ（http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/）の各シナリオのダウンロードボックス内のツイートボタンを押し、感想ツイートを投稿してください。
（このため、本シナリオを使用するには twitter アカウントが必要になります）

また、シナリオの利用の際には以下の規約をお守りください。

① シナリオの著作権は各シナリオの作者にあります。
② シナリオの再配布、商用利用はご遠慮ください。
③ 投稿されているシナリオを利用したリプレイやプレイ動画の公開、あるいはコンベンションイベントでの使用など、特殊な使い方に関しては事前に作者に連絡を取り、可否を確認してください。

トーキョーN◎V A THE AXLERATION　投稿型シナリオ共有サイト

Neuro/CrowD

投稿シナリオ No.031　『Fade to Black』

発行日：2017.1.10

執筆（著作権者）　ライドオフ
イラスト　浅葱

企画　ニューロ／ＣＤ製作委員会
ＤＴＰ　まだら牛
素材　Z-design

連絡用メールアドレス：dapple_ox@gmail.com
サイトＵＲＬ：http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/